

導入事例

23.8型ワイド液晶
LCD-C241DB-Fデジタル採点も資料作成もスピードアップ！
先生の業務効率を一気に高める液晶ディスプレイ活用術

紙中心の業務からデジタル作業へと移行が進む中、複数のデジタルツールを使いこなしながら日々の業務を進める教員の皆さんにとって、作業環境の整備は欠かせません。今回訪問した高砂市立松陽中学校では、職員室に液晶ディスプレイを導入したことで、採点業務や資料作成がどのように変化したのか伺いました。

導入商品

23.8型ワイド液晶
LCD-C241DB-F事例全文は
Webにて公開中!

デジタル化が進む教育現場で、より効率を上げるために

— 今回ディスプレイ導入のきっかけを教えてくださいませんか？

井之上先生：授業で使う教材や出席管理など、もともと紙やプリントで扱っていた資料が、ここ数年で急速に“データ化”されてきました。特に、複数のファイルを並べて比較・編集する作業が増え、「画面を切り替えるだけではミスが起きやすい」「操作や転記が煩雑だ」という問題が顕在化してきたのです。そのため“業務改善”“負担軽減”を目的に、ディスプレイ導入を検討しました。

— 数あるディスプレイから、今回の製品が選ばれた理由を教えてください。

井之上先生：まず、縦回転（ピボット）できることが大きかったです。教員の机は狭く、資料やフォルダを一覧で確認するには縦表示が便利でした。高さ調整が可能なスタンドで、机のレイアウトやスペース、姿勢に応じて自由に配置できるのも助かりました。私は画面の高さを最大まで上げて使用しています。さらに、USB Type-C対応で給電と表示が一本のケーブルで済む点も重要でした。学校はコンセントの数に限りがあるため、ディスプレイとパソコンの電源が1つで賄えるのは大きなメリットです。教員はタブレットなども使用しているので、デバイスの充電が机でできるのがよかったです。

先生の採点スピードが上がると、
テスト後の生徒の復習もスムーズに

— 実際に使ってみて、どんな変化がありましたか？

井之上先生：一番大きな変化があったと感じるのが「採点業務」です。従来は生徒の答案を紙で1枚ずつめくって採点していましたが、今は生徒の答案をスキャンして読み込んで、デジタルで採点を行っています。画面が大きいおかげで個々の答案を見やすくなり、採点スピードが格段に上がりました。もちろんノートパソコン1台でもデジタル採点はできますが、大きな画面で作業する方が効率が良いと感じています。テスト後、翌日には返却できることも増え、生徒の復習までスムーズにできるようになっています。

事務職員や管理職の方は、メール確認や提出書類のチェック、ワークフロー処理などを並行して行う場面が多く、2画面以上あると非常に便利だそうです。通知を見逃すことが減り、業務をよりスムーズに進められるようになったと聞いています。

取材にご協力いただいた先生



INTERVIEWEE

学級担当
井之上先生

CLIENT DATA

導入学校概要/
高砂市立松陽中学校
所在地/
兵庫県高砂市